



慶應義塾大学ビジネス・スクール

大阪茶屋町劇場開場5周年事業

1995年(平成7年)秋、大阪茶屋町劇場の制作プロデューサー鍋島浩は同僚の山本明とともに1997年秋に当劇場開場記念公演の企画準備に入った。当劇場は、親会社である阪急電鉄株式会社の新社屋建設に伴う梅田駅北側の再開発の中で開設されたものである。当ビルは、オフィススペースの他、大阪でもハイレベルのホテルと位置づけられるホテル阪急インターナショナル、梅田駅南側から移転した劇場「飛天」(現在の名称は移転前の梅田コマ劇場)、そして大阪茶屋町劇場が併設された複合ビルであった。

開場5周年の記念公演にあたって、大阪茶屋町劇場には以下のような選択肢があった。すなわち第一に当劇場が自主主催企画公演をすることである。この選択肢には当該企画を他劇場に売るという売り公演の可能性も考えられた。第二には東京の劇場などの自主企画公演を買う、いわゆる買い公演であり、この場合企画した組織に一定の金額を支払うというものである。第三の選択肢は東京の劇団やプロダクション、テレビ局などと共同企画(Co-Production)で東京と大阪で公演し、収益を按分するというものである。

鍋島浩はこれらの企画案を前にして、劇場設立のミッション、企画単体の採算性、記念公演のあり方などを考えながら、どの選択肢を選べばいいのか思い悩んでいた。

○阪急電鉄と演劇

大阪茶屋町劇場は阪急電鉄株式会社の大阪梅田地区北再開発事業の一環として、梅田コマ劇場(昭和31年開場)の移転を契機に、阪急電鉄およびコマスタジアムの出資で「ちゃやまちアプローチ」¹内に劇場飛天と同時に第二劇場として併設された。阪急電鉄の演劇との関わりは、1910年(明治43年)の箕面有馬電気軌道(株)の営

¹ 平成4年11月開業、建物の正式名称は阪急茶屋町ビルディング。地上34階：高さ161m 地下3階フロアの構成は大阪茶屋町劇場：地下3～地下1階 劇場飛天地下3階～7階、ホテル阪急インターナショナル1～6階 25～34階、オフィスフロア9階～23階。

このケースは慶應義塾大学経営管理研究科教授 和田充夫 と新国立劇場営業一課長 飯島健 と(社)日本芸能実演家団体協議会 加藤雅代 がクラス討議の資料として作成したものであり、経営状況の適否を例示しようとするものではない。

業開始の翌年1911年(明治44年)に出来た宝塚新温泉(後の宝塚ファミリーランド)のアトラクションとして、1913年(大正2年)4月1日宝塚唱歌隊(後の宝塚歌劇団)上演に端を発する。

- その後歴史を重ね、阪急グループは梅田地区を中心とした映画館の開設とともに、
- 5 極めて珍しい円形舞台をスタジアムのような客席から観劇する梅田コマ劇場を1956年(昭和31年)に開設した。

- 1992年(平成4年)秋は阪急電鉄にとって大規模工事が相次いで竣工し、稼働を開始した年であった。10月6日に新本社ビルが竣工し、11月2日には複合ビル「茶屋町アプローチ」が竣工、ホテル阪急インターナショナル、劇場飛天、大阪茶屋町劇場も開場した。さらに翌1993年1月1日には新しい宝塚大劇場が竣工し、公演を開始している。
- 10

○大阪茶屋町劇場開場

- 大阪茶屋町劇場は、「大阪発の劇場文化」を標榜して開場した、座席数 898 席(オーケストラピット使用時は 808 席)のいわゆる中劇場であり、宝塚歌劇専用劇場である宝塚大劇場の 2,500 席、商業演劇の立場から「ミュージカルに代表される近代路線と歌謡ショーなどに代表される大衆路線との均衡を図ること」を目指す劇場飛天(現梅田コマ劇場)の 1,900 席と比べると、明らかにその演目の種類と役割において異なっていた。
- 15

- 20 大阪茶屋町劇場は劇場飛天(現梅田コマ劇場)とは異なる興行政策を打ち出し、本格演劇を基本とする高級劇場として、商業演劇の枠を超え、独自の文化を形成する新しい発想で演劇を提供する(設立趣意書より)ことを目指しており、前者とは明確に差別化された劇場として設立された。

- 25 ステージは、間口 16m、奥行 14.5m、高さ 6.7m のプロセニウム形式。コンピューター制御の効果音やムービングライトの導入など、ミュージカルや演劇を重視した設計がされており、ダイナミックかつ臨場感あふれる演出を、存分に楽しむための工夫が随所に見られる。客席は、シート幅が広いイスでどこに座っても快適に舞台が見やすいのが特長である。

- 30 また、阪急梅田駅から徒歩 3 分という好立地にあり、神戸、京都には直結しているほか、JR、阪神、地下鉄各線梅田(大阪)駅からも徒歩圏内で、関西 2 府 4 県からのアクセスは最高レベルにあるといえる。

開場5周年への準備が佳境に入った1995(平成7)年当時、大阪茶屋町劇場は900席のキャパシティを有する第一級のミュージカル、演劇公演を行う劇場として、その地位を確立しつつあった。その上演作品は、海外の話題作からオリジナル作品まで多彩であり、ミュージカルスクールを併設するなど、有能な才能の発掘育成にも力を注いでいた。

5

○ミッションと運営形態

劇場設置が計画段階にあった1990年当時、すでに演劇興行界における東京一極集中状況は顕著な現象ではあったが、一方で80年代後半頃から、近鉄劇場(近鉄)、扇町ミュージアム・スクエア(大阪ガス)、新神戸オリエンタル劇場(ダイエー)など、企業が文化戦略を背景に新しい試みの場として次々と劇場を設け、そこから関西発の演劇が発信され、演劇熱が醸成されつつあるという機運もあった。

10

昭和31年から30有余年に亘って阪急グループにおける演劇分野の一翼を担ってきた(株)コマ・スタジアムが文化創造に果たした役割は大きく、グループの偉大な財産と自負に値するもの(設立趣意書より)であり、これを継承しつつ、旧梅田コマ劇場の移転に当たっては、さらに近代的な劇場に変貌していくことが周囲から期待されているとしていた。

15

特に、ちゃやまちアプローズには大・中2劇場の併設となるため、それぞれの劇場の特性を発揮することにより、トータルとしての演劇文化を創出することが戦略上の基本要件に位置づけられていた。そのために、第二(中)劇場の運営は、(株)コマ・スタジアムとは別に、新たな運営主体を創設して、これまでグループ内で培われた知恵を集め、新たな演劇文化を創造することにより、両劇場のもたらす相乗効果で、同建物内の高級ホテルへの回遊性、更には「茶屋町」地区の新しい街作りに寄与する、とされていた(設立趣意書より)。

20

大阪茶屋町劇場の施設、設備は、梅田コマ劇場を運営する(株)コマ・スタジアムの所有となっており、従って、運営主体として設立された株式会社大阪茶屋町劇場は賃借料をコマ・スタジアムに支払う形をとっている。また、設立趣意書には、安定的な経営を図るための政策として、地元放送局を中心とした貸館経営を行うと共に、自主公演については、阪急グループの演劇文化向上を目指し、本物志向で質の高い本格演劇を創造するため、これを理解し、その発展に協賛する企業を募集して、採算性を確保する、とも設立趣意書には記載されていた。設立当初の想定予算では、収

25

30

入の約 25%をこうした企業からの協賛金で賄い、約 20%を貸館事業から、そして残りを自主公演からの興行収入等で賄うこととされていた。

さらに、基本的な興行政策としては、商業演劇の立場にある大劇場(飛天)との差別化を図るため、「本格演劇を基本とする高級劇場」と位置づけ、本格路線であることを基本として、ハイソサイエティを対象とした非日常空間と時間を創造すること、が挙げられていた。

○東西の劇場経営事情

我が国の劇場事情を大別すると、商業演劇を中心とした大劇場、商業演劇と芸術演劇の公演を兼ね備えた中劇場、そして小劇団を中心とした小劇場ということになるだろう。

1995年当時の大阪周辺2府4県(大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、滋賀県)の人口は約2千万人で、首都圏1都3県(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県)の3千2百万人の63%であったが、観客の動員に関しては、どんな人気作品でも、俗に首都圏での動員数の「半値(半数)八掛け」、すなわち $50\% \times 80\% = 40\%$ 程度というのが定説となっており、これが企画立案に際して、常に悩みの種となっていた。演劇年鑑によれば、実際に演劇作品が上演された回数の比較では、商業演劇・ミュージカル・新劇の3分野の合計では、大阪は東京の 20%程度となっている。

東京のいわゆる中劇場(曖昧なカテゴリーだが、帝国劇場(1,917 席)、新橋演舞場(1,428 席)などの商業演劇を行う劇場でなく、演劇、ミュージカルを上演できる舞台と 500～1,000 席程度を有する劇場)としては、青山劇場(1,200 席)、シアターコクーン(747 席)、パルコ劇場(458 席)、銀座セゾン劇場(当時の名称 774 席)、アートスフィア(746 席)、東京芸術劇場中ホール(841 席)、サンシャイン劇場(832 席)、シアターアプル(700 席)といった劇場があるが、これらに匹敵する関西の劇場は近鉄劇場(954 席)、新神戸オリエンタル劇場(639 席)、京都のシアター1200(当時の名称 943 席)と大阪茶屋町劇場を数えるだけであった。

中劇場という規模での演劇制作は、制作経費が大劇場と小劇場の間というわけにはいかず、それに対して1回の公演によるチケット収入が座席数の関係で限られるため、収支バランスをとるのが難しい。中劇場公演での直接収支(公演経費と収入)

でさえ、収益を生むのは至難の業であり、東京以外の地域へのいわゆる売り公演で収益を生むのが唯一の道である、と断言する関係者もいる。この他に、ロングラン公演を行うことで、制作費を回収する方法もあるが、会場を相当期間確保する必要があり、チケット販売の目途がある程度たつことなど、いくつか満たすべき条件があり、容易ではない。

5

その上、大阪で行う公演の場合、メインスタッフやキャストに東京在住者が多いケースが殆どで、そのための交通費、宿泊代など、東京公演では必要のない支出も発生するため、制作面でも負担を強いられる状況にあった。

10

○自主公演

大阪茶屋町劇場の行う自主公演には、大きく分けて、自ら企画しスタッフイング、キャストイングといった制作を行う主催公演、共同企画(Co-Production)公演、そして、買い公演の3種類がある。

買い公演とは、主として東京の劇団、プロダクション、テレビ局などが企画したものをパッケージで購入し、公演を行うものであり、買い公演と主催公演の中間的なものに、主体は外部だが企画から参加する共同企画(Co-Production)公演とがある。買い公演の場合、作品、キャストなどの情報が確定していること、支出が最初から確定しているため、売り上げの予想がつけば、収支見通しが立て易い(逆に、収支見通しが見えず、他にプラス要素が無ければ買わなければ良い)というメリットがある。また、共同企画(Co-Production)であれば、企画段階から参加するため、収支面でのリスクを最小化しながら、独自のアイデア等を活かせるという更なる利点もある。もともと、主導権の持ち方によってリスク配分が異なることは明らかである。

15

20

主催公演の場合は、企画制作すべてを主導的に行うため、作品自体には、独自性を強く打ち出すことが可能だが、支出が予算内に収まらなかった場合など、相応にリスクを負うこととなる。

25

○開場からこれまで

大阪茶屋町劇場は、1992年11月2日、ミュージカル『ミスター・アーサー』で本格的に幕を開けた。ついでロンドンミュージカル『禁断の惑星から』の引越公演、さらにミュージカル『ファニー』公演へと続いた。オープン記念の大型3作品は、いずれも話題

30

作としてヒットする可能性のある作品ではあったが、結果的に、公演入場料収入の面から見ると成功とは言い難い結果であった。

ミュージカル『ミスターアーサー』は、アメリカでトライアウト²公演まで出来上がっていた新作で、その段階でオファーがあり、アメリカではトライアウトを重ねつつ、オン・ブロードウェイ³を狙っていたので、これが達成されれば日米同時公演という快挙の可能性もあったが、大阪茶屋町劇場での公演が始まった頃には、夢破れブロードウェイで公演されることなく終わっていた。同作品のアメリカでの状況とは関係なく、大阪茶屋町劇場開場記念公演では、宝塚月組元トップスター剣幸と野口五郎という知名度の高いキャストでの集客に期待が寄せられていたが、公演回数 62 回を数えたが、はかばかしくない結果で 1992 年 12 月 13 日終了した。

開場第2弾である、ロンドンからのミュージカル『禁断の惑星より』引越公演は 1960 年代のロックンロールを取り込み、当時ウエストエンドではロングラン中で現地では 1990 年のローレンス・オリビエ賞のベスト・ミュージカル賞をライバルの『ミス・サイゴン』を抑えて受賞するなど高い評判を呼んでいた作品で、集客が期待されたが大苦戦を強いられた。ロンドン・ウエストエンドでの公演に出演していたオリジナルキャストも呼んでおり、東京からわざわざ見に来た舞台関係者からは「すばらしい、なぜ東京に持ってこない！」との感想が寄せられており、いわゆる玄人受けする作品だったようだ。

さらに、年度が変わった 1993 年 6 月には、ブロードウェイミュージカル『ファニー』が上演されたが、ハロルド・ロームの名作も十分な観客動員には繋がらなかった。

大阪茶屋町劇場オープン企画のこれら3作品の観客動員における不振について、親会社をはじめとする関係者の主な声は、「いずれの公演も、販促、広報、チケット販売のあらゆる面で関西の市場規模を超えたものだ。」ということであった。以後も、ミュージカルを中心に話題作の上演を続けたが、前売り初日に社員総出で電話予約の受付を行わなければならない宝塚歌劇特別公演(年に1-2回)以外は売り切れ公演には恵まれなかった。加えて貸館収入は、計画時想定の半分以下という状況が、開館以来続いており、経営の不振は明らかであった。こうした状況に加え、バブル経済崩壊の影響をまともに受け、当初は親会社のルートや大手広告代理店の力で順調に集まっていたグループ内外の企業からの協賛金が年を追う毎に減少し、5 周年記念

² ブロードウェイでの公演を目指して地方で手直しを繰り返しながら重ねる公演のこと。シカゴ、ボストン、モントリオールなどで行われることが多い。

³ ブロードウェイの劇場で公演すること

事業の企画段階では、設立当初の予定を大幅に下回る事態に至っており、この傾向は、当時の経済情勢から考えて、暫く続くことが予想されていた。

○5周年事業のミッション

5

このような経緯から、5周年記念事業を行うにあたり、前提となる最低条件は以下のようなものだと考えられた。

- (1) 本格演劇を基本とする高級劇場として、商業演劇の枠を超え、独自の文化を形成する新しい発想で演劇を提供するミッションを具現化すること。
- (2) 上述した本格演劇公演の実現のため、阪急グループが有する宝塚歌劇の退団者を主要なキャストに入れることが比較的容易であり、またミュージカルに関するノウハウも有しており、候補作品としてはミュージカル作品を考えるべきである。
- (3) 公演公演収支の欠損を出さないことが望ましい。開場以来の収支が、公演売り上げの伸び悩みなどにより、一般管理費を含めた劇場全体ではかなりの欠損となっていること、また、当初はその欠損の大部分をカバーしていた企業協賛金が減少の傾向にあり、今後も更に続くと思われることから、公演収支の欠損を出すことは開場以来の累積損をこれ以上増やすことを意味した。

10

15

○開場以来の状況

20

5周年記念事業企画立案にあたり、二人のプロデューサーはまず、これまでの上演作品の問題点の分析を行った。

開場記念3大作品に見られるような、目標を下回る集客は、その原因が作品そのものの魅力よりは、大阪単独公演のリスクをまともにかぶったことが一番大きかったと考えられた。すなわち、

25

(1) 大阪発の劇場文化の発進というミッションの達成という意味では大いに意味があったが、東京での公演がないことにより、東京からほとんど無視されてしまった、或いは、情報が伝わらなかったため、単なる一地方の公演となってしまったこと。

(2) 予算上、経費をカバーし収益をあげ、収支バランスをとるためにマーケットに対して過剰な公演回数を行なわざるを得なかった。

30

○検討経過

このような認識を踏まえ、鍋島、山本の2人は今後採るべき方向を模索していた。候補に挙げた作品はブロードウェイ・ミュージカルの名作「アニーよ銃をとれ」「オン・ザ・タウン」「努力しないで出世する方法」「スイニー・トッド」などがあつたが、5周年事業として、決め手を欠いたままの状態であつた。

95年も押し詰まった12月にジュリー・アンドリュース主演でブロードウェイにおいて公演中の『ビクター／ビクトリア』の上演権利取得の可能性があるとの情報がもたらされた。2人の担当プロデューサーは、共に同名の映画を見ており、また山本はそれを元にした松坂慶子主演のオリジナル音楽劇公演(旧梅田コマ劇場で上演)に関わつていたため、作品の面白さ、主演女優のイメージもつかめていたため、早速上演の可能性の検討に着手した。

ただ、オン・ブロードウェイ⁴作品であるため、取得の条件が大変厳しく「アドバンス⁵50万ドル、ロイヤリティ⁶12%」である、との続報がもたらされた。これに対し、収支面から上演可能性を検討した(別表)結果、大阪単独ではどうあがいても収支購えず、それどころか、東京との共同企画(Co-Production)であっても成立し得ないという結論に達し、このことを劇場トップに報告の上、断念した。

一旦は霧散したと思われたこの企画ではあつたが、96年3月、別のルートから新たなオファーがもたらされた。

既にいくつかの企画でパートナーシップを結んでいたキョードー東京副社長とは、どんな作品であれ、集客の可能性のある作品であれば、共同企画(Co-Production)をしようと密接に連絡協議を重ねていた。同副社長はブロードウェイに持っている独自のネットワークで『ビクター／ビクトリア』の上演権取得の可能性を探っており、上演権取得のための交渉を現地ニューヨークで開始した旨の連絡が入ったのは4月中旬であつた。

この交渉を前向きに考えた、ブロードウェイで公演中の作品プロデューサーであるトニー・アダムスからは上演権を持っている作家のエージェントにオファーをしているので、暫く時間が欲しい旨連絡があり、ロイヤリティ8%、アドバンス30万ドルという条件

4 ブロードウェイで現に公演中の作品

5 返還することのないロイヤリティの最低額

6 売上から税金及び販売手数料を差し引いた上演権料

がもたらされたのは、6月下旬のことであった。

○選択肢

上演作品を『ビクター／ビクトリア』とすることをほぼ決定した二人のプロデューサーが諸事情を勘案の上、最終的に浮かび上がってきたのは、以下の2つの選択肢であった。なお、最初に考えられた3つの選択肢のうち、外部からの買い公演に関しては、公演製作のリスクを回避し、観客動員等の可能性の点から十分採算のとれる公演を選択することが可能であり、経営的なリスクの上では優れていると考えられたが、この場合、これまで5年間、様々な企画を積み重ね、関西で、第一級のミュージカルや演劇を発信する劇場としての地位を築きつつあった大阪茶屋町劇場の周年企画としての妥当性に疑問が残るとして、排除していた。

I)：主催公演

- ・大阪発の劇場文化を発信する大阪茶屋町劇場開場5周年記念として、あくまで単独主催の公演を企画するべきである。

II) 共同企画(Co-Production)

- ・経営の安定の見地から東京の主催者とのパートナーシップを結び、公演製作のリスクを按分する。

周年企画の進め方としてどれを選ぶべきか、どちらに最後の決断をすべきか、その時が近づいていた。

そして、その選択が中劇場経営の将来がかかっていると言っても過言ではなかった。

資料1:大阪茶屋町劇場概要:

床面積 1階62.88平米 地下1階2,168.08平米

地下2階1,944.84平米 地下3階930.63平米 計5,160.43平米

舞台形式 プロセニウム形式 幅16m 高さ5.2-6.7m 奥行14.5m

客席数:898席 楽屋:11部屋 リハーサルルームあり

資料2:基本興行政策を支える大阪茶屋町劇場の収支構造:

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
入場料	770,000	789,000	809,000	829,000	850,000
貸館収入	270,000	277,000	284,000	291,000	298,000
プログラム	14,000	15,000	16,000	17,000	18,000
協賛	325,000	333,000	341,000	350,000	359,000
計	1,379,000	1,414,000	1,450,000	1,487,000	1,525,000
賃料	356,000	365,000	374,000	383,000	393,000
公演原価	780,000	800,000	820,000	841,000	862,000
人件費	138,000	141,000	145,000	149,000	153,000
管理費	15,000	16,000	17,000	18,000	19,000
光熱水料	40,000	41,000	42,000	43,000	44,000
その他	50,000	51,000	52,000	53,000	54,000
計	1,379,000	1,414,000	1,450,000	1,487,000	1,525,000
損益	0	0	0	0	0

資料3:演劇各分野別上演回数

		1993	1994	1995
歌舞伎	東京	1320	1132	957
	名古屋	94	35	133
	京都	249	101	161
	大阪	251	192	193
	巡回	260	389	334
	小計	2174	1849	1778
文楽	東京	148	149	153
	名古屋	-	-	-
	京都	-	-	6
	大阪	237	245	240
	巡回	53	2	30
	小計	438	396	429
商業演劇	東京	2443	3972	4147
	名古屋	1196	1223	1147
	京都	211	272	304
	大阪	1728	1470	1771
	巡回	391	43	320
	小計	5969	6980	7689
ミュージカル	東京	1589	1310	1670
	名古屋	163	208	113
	京都	30	56	17
	大阪	280	815	765
	巡回	829	350	25
	小計	2891	2739	2590
新劇	東京	9507	9119	10096
	名古屋	47	80	85
	京都	-	29	21
	大阪	255	571	356
	巡回	1182	112	790
	小計	10991	9911	11348
合計		22463	21875	23834

(日本演劇協会監修、演劇出版社発行『演劇年鑑』1994,1995,1996年版より)

資料4:中劇場協議会参加劇場

東京には中劇場協議会という組織がある。同協議会の会則によれば、「主として演劇を上演する定員300名以上850名以下の劇場(後略)」とあり、以下の14劇場が参加している。

- サンシャイン劇場(832) 三百人劇場(257) パルコ劇場(458) 前進座劇場(500) 俳優座劇場
5 (300) 博品館劇場(381) 本多劇場(386) 三越劇場(514) シアターコクーン(747) シアターサン
モール(294) アートスフィア(746) シアターX(172~300席) 紀伊國屋ホール(418) 紀伊國屋サ
ザンシアター(468)

10

資料5:『ビクター・ビクトリア』クレジットおよびシノプシス

(Tams-Witmark Music Library, Inc website <http://www.tams-witmark.com/> より)

<クレジット>

- 15 **ビクター/ビクトリア** 脚本:BLAKE EDWARDS
作曲:HENRY MANCINI
作詞:LESLIE BRICUSSE
補足音楽:Frank Wildhorn
ブロードウェー・オリジナル制作:ブレイク・エドワーズ、トニー・アダムズ、
20 ジョン・シャー、エンドモール・シアター・プロダクション、ポリグラム・ブ
ロードウェー・ヴェンチャー
ターナー・エンターテインメント配給の劇場の映画に基づき制作

<受賞(1995-96)>

- 25 ドラマ・デスク・アワード:主演女優賞、助演女優賞
アウター・クリティック・サークル・アワード :主演女優賞、作品賞

<シノプシス>

ACT1:

- 30 キャロル・トッド(仲間からは「トディ」と呼ばれている)は、アンリ・ラビッシが経営するリーブゴーシュの
ゲイクラブ「シェ・リュイ」にかろうじて雇われている専属芸人。トディとダンサーのレ・ボーイズは目の肥

えたお客を魅了している。—Paris By Night— 調子に乗ったトディは、別れたボーイフレンド、リチャードが連れてきた常連客のグループを侮辱してしまう。怒ったラビッシは、彼をクビにすると脅す。

無一文のイギリス人のソプラノ(ビクトリア・グラント)は、ラビッシのオーディションを受けに来るがラビッシが認めないので、トディが口添えをする。しかしラビッシは彼女を拒絶し、その上彼を本当にクビにしてしまう。トディはビクトリアを彼の小さなアパートに連れて帰り、寒い冬の夜の雨で濡れた彼女を助ける。彼らはすぐに互いに心を開き親しみを感じる。男だったらずっと有利だったのにとビクトリアとは反対に、トディは彼自身がビクトリアのように女性だったら良かったのと思う。—If I Were A Man

別れたボーイフレンドのリチャードが、自分のものを取りに不意に現れる。折悪しくビクトリアがリチャードの帽子とパジャマを身につけていたので、リチャードは彼女がトディの新しいボーイフレンドと誤解しトディを侮辱する。ビクトリアはリチャードを殴って、彼を追い出してしまう。リチャードは、ビクトリアが男だと本当に思ってしまった！トディは驚き、次の瞬間、すばらしいアイディアが浮かぶ。そうだ！ビクトリアは間違いなく男に—ヨーロッパで最高の女形俳優になりうる！

きちがい沙汰だわとビクトリアは主張する。構わずトディはアイデアを更に進めて、彼女はゲイのポーランドの貴族ビクター・グラジンスキー伯爵で、トディの新しい恋人だということにしようと訴える—Trust Me— 「うまくいくよ！」彼は主張する。「いかないわ！」ビクトリアは言い返す。「女装した男性が、実は男装した女性だなんて誰も認めてくれないわ、そんなまやかしを！みんな、彼がニセモノだと見破るわ！」「その通り。みんなは彼がまやかしだっただけ見破るさ！」トディは言う。

トディは、乗り気でないビクトリアを引きずって、パリー一番の興業主アンドレ・カッセルに合わせる。カッセルはビクター・グラジンスキー伯爵のことを疑っていたが、実際にグラスが砕けるほどのハイGフラットまでの高音を聞いて納得してしまう。

Le Jazz Hot! ビクターのパリの舞台へのデビュー。ビクターの素晴らしいパフォーマンスは、たちまち大人気を博す。ビクターが男かどうか疑いの目でみているのは、活発なアメリカ人のビジネスマンで—ギャングのような風貌のキング・マーチャンだけ。キングは口うるさいガールフレンド、ノーマと忠実な護衛のスクァッシュと共にパリに滞在中。彼は、ビクターが女性だと確信し、それを証明しようと決心する。カッセルがビクターのために開いた初日の夜のパーティーで、キングは、彼の疑念を証明するためにノーマとビクターがタンゴを踊るように仕向ける。—The "Paris By Night" Tango ビクターのタンゴは素晴らしく、ノーマはぞくぞくさせられる。キングは混乱し、やはり男なのかと自分自身の勘を疑い始める。彼はやはり女性として魅力的なビクターの一面を見つけるが、しかし、万が一彼が男ならば、どういうことなのか???

混乱の中、キング、ノーマ、スクァッシュは隣のスイートルームに大成功したトディとビクターがいるのを知る。ノーマは、キングをベッドへと誘う。—Paris Makes Me Horny 彼女は彼をその気にさせてベ

ッドに引きずり込もうとするがうまくいかない。隣の扉の向こうでは、ビクトリアが、トディにとうとう夢にまで見た男性に出会ったわ、でもわたしも男なのねと、キングを想いながら嘆いている。—*Crazy World*

5 ACTII

ビクターは、パリ中に旋風を巻き起こしている。—*Louis Says* ノーマは、ビクターとトディのところにやってきて、キングが、彼女をシカゴに送り帰すと言っていると苦情を言いに来る。その理由はともあろうに男のビクターのことが好きになったからだという。

キングは、彼とビクターとの関係についての疑いに直面する。—*King's Dilemma* そんなことがあり得るだろうか？自分が男に夢中になるなんて？彼は、解決策を見つけるためにビクターとトディを夕食に招待する。夕食の後に、ビクターが女性であると疑っているラビッシの店シェ・リュイに行くと、ラビッシが彼女/彼に歌ってくれるよう促す。仕方なくビクターとトディは歌う。—*You and Me*

二人が歌っている最中に、リチャードのグループが、騒々しくやってくる。ビクターはリチャードをわざとつまづかせて、クラブで大喧嘩が始まる。喧嘩を收拾するために警官がやってくる。クラブの外で、キングが、君が男でもかまわないとビクターに言い、キスをしてしまう。ビクトリアは、男ではないと認める。キングは、どちらでもかまわないと言って、再びキス。—*Reprise: Paris By Night*.

再びホテルの部屋、スクアッシュがキングの寝室に飛び込むとキングとビクターがベッドにいるのを見つければ「申し訳ありません、ガイズ!」と丁寧に謝罪する。キングは説明しようとするが、スクアッシュはキングを崇拜していて、彼も同性愛者であると告白し、彼のボスを茫然とさせてしまう!

20 ビクターとキングは 2 人の男の関係として、このことがばれたらどうなるか、予想される問題を考えるが、うまくいきそうもない。—*Almost a Love Song*

シカゴに戻った、ノーマはシカゴのナイトクラブに出演している。—*Chicago, Illinois* 彼女は、キングが厄介払いしたキングのギャング仲間のサル・アンドレッティに、キングが彼女を振って、「ゲイのポーランドの妖精」と一緒に住んでいると教える。サルは仰天して、みんなでヨーロッパへ行くと言

25 26 27 28 29 30

それから 2 週間後。トディとスクアッシュは幸福なパートナーになっている。彼らとは裏腹に、キングとビクトリアは、外で一緒にいるところを見られてはならない境遇。—*Living in the Shadows*.

ビクトリアは、もう男役は嫌だとトディに言い、トディは理解する。

30 サルと振られたノーマがパリにやってくる。キングは、秘密を守るために彼が「ビクター」を愛していると認める。うんざりしたサルは彼らの取引関係は終わりだと言い放つ。ビクトリアは「私は女よ」とノーマに

シャツのボタンをはずして告白する。ノーマはぞっとする。ラビッシは、この衝撃的な真相が明らかにされた瞬間を目撃してしまう。今度はビクトリアがぞっとする。トディは、彼女に心配しないように言う。 —
Trust me!

フィナーレ。ビクトリアはビクターの姿とはお別れ—*Victor/Victoria*— ラビッシは、彼/彼女の偽りを、詐欺としてすっぱ抜こうとする。ラビッシの企てを妨害するため、トディはビクトリアに取って代わって、彼女の舞台衣裳で華やかに登場。2組の愛し合うカップル—キングとビクトリア、そしてトディとスクアッシュ。ハッピーエンド。

(Leslie Bricusse)

資料6: 大阪茶屋町劇場主要上演作品

種別	タイトル	期間	構成・振付・アキコ・カンダ 演出・酒井澄夫	主な出演者	協賛・後援など
主催	開場御披露目祝演 「茶屋町劇場誕生」	1992/10/25		アキコ・カンダ アキコ・カンダ・ダンス・カンパニー	
主催	ダスキンスペシャルミュージカル 「ミスターアーサー」	1992/11/2 ～12/13	総指揮・小林公平、演出・酒井澄夫	野口五郎、剣幸、嵯川哲朗、小鹿番、笹野高史、諏訪マリ 一、安岡力也、春風ひとみ ほか	協賛:ダスキン 後援:関西テレビ放送
主催	三菱商事スペシヤル 「TAKARAZUKA夢」	1992/12/15 ～20	作・演出:草野旦	大浦みずさ、 宝塚歌劇団 花組、月組、雪組	協賛:三菱商事(株)
主催	宝塚歌劇公演サンスター・スペシヤル 「ジョー・スペクタクル 「Jump for Joy」	1992/12/23 ～29	作・演出:三木章雄	宝塚歌劇団 月組:若央りさ、天海祐希、汐風幸ほか 雪組:一路真輝、海峡ひろき、純名りさほか	協賛:サンスター(株)
主催	大阪茶屋町劇場 ジャズスペシヤル 「COUNT DOWN AT JAZZ CITY」	1992/12/31	構成:小曽根実	小曽根実、伊藤君子、北野タダオ&アロー・ジャズオーケストラ ほか	
貸館	ロシア国立オストロフスキー記念 「モスクワ・マームール劇場」	1993/2/26 ～28	[2/26,27]「桜の園」原作:アントン・チェーホフ、演出:イーゴリ・イリンスキー [2/28]「ニコライ二世」原作:セルゲイ・クズネツォフ、演出:ボリス・モローゾフ	「桜の園」N. コルニエンコ、A. オフルーピナ、T. レーベジエフ、V. パビヤチンスキー、V. コルジュノフ ほか 「ニコライ二世」Y. ソローミン、N. コルニエンコ、N. チーホノフ、K. モイセーエフ、O. クズネツォフ、T. レーベジエフ ほか	主催:朝日新聞社/朝日放送 後援:外務省/文化庁/ロシア共和国文化省、モスクワ市/ロシア連邦大使館
主催	サントリースペシヤル 「禁断の惑星への帰還」	1993/3/12 ～4/7	作・演出:ポプ・カールトン	タイム・パロン、ステイブン・タイト、クリス・ブルーカー、ジュリアン・リットマン、ニナ・ラッキング、カレン・マッパほか	
貸館	ミュージカル 「香港ラブソング」	1993/4/16 ～30	演出・振付:宮本亜門、音楽:ディック・リー	福井貴一、伊原剛志、マリオン、宮本裕子、尾藤イサオ、上條恒彦ほか	主催:関西テレビ放送、後援:FM802、 提供:フルハウス、協賛:常盤薬品
主催	プロードウェイ・ミュージカル 「Fanny」	1993/6/4 ～28	原作:マルセル・パニョール、台本:S.N.バーマン&ジョシュア・ローガン、音楽:ハロルド・ローム、演出:中村孝夫	島田歌穂、財津一郎、宝田明、福井貴一、中丸新将、安西正弘、篠名由梨、ミッキー・カーチス	
貸館	「王女メデア」	1993/7/2 ～28	演出:蜷川幸雄	嵐徳三郎ほか	主催:毎日放送
貸館	明治生命ミュージカル 「Annie」	1993/8/1 ～15	演出:篠崎正嗣	平野忠彦、金井克子、峰さを理、大輝ゆう、金井れな、西田彩香、小宮健吾	主催:讀買テレビ、協賛:明治生命保険相互会社 後援:文化庁、アメリカ大使館、読売新聞大阪本社、協力:朝日通信社
貸館	クリステイナ・オヨス舞踊団	1993/9/1 ～12		クリステイナ・オヨス ほか	主催:朝日放送、後援:FM大阪
貸館	讀買テレビ開局35年記念 「OSAKA感謝祭'93」 関西劇団バトレマッチ in 大阪茶屋町劇場	1993/9/15～19 22～27 28,30	M.O.Pプロデュース公演「エンジェル・アイズ」 演出:マキノノゾミ 劇団そとばこまち&南河内万歳一座合同公演 「九月の昆虫記」作・演出:内藤裕敏、生瀬勝久 劇団☆新感線 あとのまつり興行「オロチ ロックショー」構成・演出:いのうえひでのり	「エンジェル・アイズ」前田耕陽、枯暮修、木村緑子ほか 「九月の昆虫記」味楽智太郎、山内惇、河野洋一郎ほか 「オロチ ロック ショー」古田新太、おかげ謙、ブラザーズ・ハードロック同好会ほか	主催:讀買テレビ/OSAKA感謝祭実行委員会 後援:FM802

主催 (買)	大阪茶屋町劇場演劇祭	1993/10/2～7 9～17 19～24 27～31	ロマンス公演「カワい」作・演出:逢坂勉 地人会公演「はなれ瞽女おりん」作:水上勉、演 出:木村光一 民藝公演「終末の刻」作:村山知義、演出:滝沢 修 文学座公演「夜のキャンパス」作:江守徹、演出: 成井市郎	「カワい」野川由美子、財津一郎、ほか 「はなれ瞽女おりん」有馬稲子、松山政路ほか 「終末の刻」滝沢修、内藤安彦ほか 「夜のキャンパス」杉村春子、新橋耐子ほか	主催:関西テレビ放送・大阪茶屋町劇場・(株)松 竹 特別協賛:(株)三城 協賛:高醫薬品、長沼静きもの学院 協賛:宝塚音楽出版(株)
共同 主催 (買)	大阪茶屋町劇場開場1周年記念特別公演 メガネの三城スペシャル 「天守物語」	1993/11/15 ～28	作:泉鏡花、演出:齋藤雅文	坂東玉三郎、中村芝雀、堤真一、山本草、坂東玉雪、坂 東弥十郎、南美江	
主催	宝塚歌劇公演 ミュージカル・パフォーマンス 「ライト&シャドウ」	1993/12/19～ 29(星組)、 1994/1/5～16 (雪組)	作・演出:石田昌也	(星組)夏美よう、洲優花、千珠咲ほか (雪組)飛鳥裕、早原みゆ紀、高嶺ふぶき ほか	
主催 (買)	オンシアター自由劇場1994年大阪公 演 「クスコ」	1994/2/2～6	作:斎藤麟、演出:美術:串田和美、演出:岡村 春彦	吉田日出子、大森博、真名古敬二、小日向文世、小西康 久 ほか	協賛:阪急女の会
主催	ミュージカル 「ザ・シンギング」	1994/2/11 ～27	原作:シーロン・レイノズ、演出:鈴木亮一郎	大浦みずき、岩本恭生、中丸忠雄ほか	
貸館	劇団四季公演 「ジーザス・クライスト・スーパースタ ー」	1994/3/2 ～16	台本・詞:アイモシー・ライス、音楽:アンドリュー・ ロイド・ウェバー、演出:浅利慶太	山口祐一郎、芥川英司、沢木順、飯野おさみ、芝清道、 野村鈴子 ほか	主催:劇団四季・毎日放送 協賛:(株)ロッテ
主催 (Co)	オフ・ブロードウェイ・ミュージカル 「ラヴ」	1994/4/1～18	台本:ジェフリー・スウイート、作曲:ワード・マー レン、演出:翻訳:勝田安彦	西城秀樹、鳳蘭、市村正親	
主催 (買)	劇団民藝公演 「おはなはん」	1994/4/20 ～22	原作:林謙一、演出:米倉斉加年	壺山文枝、米倉斉加年、内藤安彦、ほか	
主催	オフ・ブロードウェイ・ミュージカル 「コレット・コラー・ジュエリー・コレットをめぐ る二つのミュージカル」	1994/4/25 ～27	台本・詞:トム・ジョーンズ、音楽:ハーヴェイ・シュ ミット、演出:翻訳・歌詞:勝田安彦	旺なつき、嵯川哲朗、大方斐紗子、二瓶鮎一ほか	
共同 主催	音楽のあるPlay 「ゴールド家のたそがれ」	1994/4/29 ～5/2	作:ジョナサン・トールソン、演出:鶴山仁 企画制作:(株)バルコ、(株)ジェントル・アーツ	麻実れい、前田耕陽、河内桃子、福井貴一、勝部演之	
共同 主催	ミルバ・ドラマティック・リサイタル'94 「ミルバ 愛の讃歌」	1994/6/7 ～12	指揮:ピアノ:ナターレ・マツサーラ、演奏:ミルバ・ セクスレット	ミルバ	主催:関西テレビ放送・Kiss-FM、大阪茶屋町劇 場 協賛:味の素(株)、後援:イタリア大使館
貸館	アトリエ・ダンカン・プロデュース 「ステッピング・アウト」	1994/7/1～8	原作:リチャード・ハリス、訳:演出:栗山民也	木の美ナナ、森公美子、鷲尾真知子 ほか	主催:関西テレビ放送 協賛:ハウス食品
共同 主催 (買)	坂東玉三郎特別公演 「ふるあめりかに袖はぬらさじ」	1994/8/22 ～9/4	作:有吉佐和子、演出:成井一郎	坂東玉三郎、宮沢りえ、大滝寛、安井昌二	主催:関西テレビ放送・大阪茶屋町劇場

「OSAKA 感謝祭」	1994/9/21～27 9/29～10/2 10/5～10	演劇集団キャラメルボックスFeaturing惑星ピスタチオ「俺たちは志士じゃない」作・演出：成井豊、真柴あずき 名作劇場 永盛丸公演「青木さん家の奥さん〜グレコローマンスタイル」 M.O.P.プロデュース公演「1862 上海大冒険」 作・演出：マキノノゾミ 作・中島かずき、演出：いのうえひでのり	「俺たちは志士じゃない」西川浩幸、近江谷太郎、西田シヤトナー、腹筋善之介ほか 「青木さん家の奥さん」河野洋一郎、保井健ほか 「上海大冒険」キムラ緑子、三上孝郎	主催：讀賣テレビ・OSAKA感謝祭実行委員会 後援：FM802
貸館 「古田新太之丞 東海道五十三次地獄旅 ハヤシもあるでヨ！」 ミュージカル 「裸になったサラリーマン」	1994/10/12～17	演出・脚本：石塚克彦	古田新太、高田聖子、橋本じゆん。橋元さとし、桔馨修、逆木圭一郎、竹田団吾、羽野晶紀 ほか	後援：関西テレビ放送
主催 (Co)	1994/10/24～26 12/14,15	演出・脚本：石塚克彦	劇団ふるさときやらばん	
主催 (買)	1994/11/4～13	演出・振付：謝殊栄	大浦みずき、福井敬一、平沢智、福麻むつ美、荒川亮、峰丘奈知ほか	協賛：JCB
主催 (買)	1994/11/25～27	構成・演出：加来英治	栗原小巻、伊藤孝雄、南風洋子、池田勝、森下哲夫 ほか	
主催 (買)	1994/11/29	作・演出：吉田秀穂	布施明、小野田安秀	
主催 (買)	1994/12/2～4	作詞：オズカー、ハマースタイン2世、作曲：リチャード・ロジャース、演出：吉川徹	岸田智史、剣幸、松本梨香、石井一孝、佐渡寧子	
主催 (買)	1994/12/23～1995/1/8	作・演出：谷正純	天海祐希、久世星加、姿月あさと、汐風幸 ほか	協賛：田崎真珠(株)・TMP
主催 (買)	1995/1/12～14	作・演出：草野旦	一路真輝 ほか	協賛：ペルソナカード・TMP
主催 (買)	1995/2/24～26	歌・演出：勝田安彦	岸田智史、日向薫、嵯川哲朗 ほか	
主催 (買)	1995/3/3～5	作・演出：江守徹	杉村春子 ほか	
共同 主催 (買)	1995/3/10～22	企画・演出・美術：宮本亜門	唐沢寿明、夏木マリ、早坂好恵、寺田稔 ほか	主催：大阪茶屋町劇場・関西テレビ放送、 協賛：サントリー(株)、阪急電鉄(株)
主催 (買)	1995/4/1～3	作：山田太一、演出：加藤直	八千草薫、河内桃子、田中由美子、風間杜夫、北村和夫、近石真介、高橋克明 ほか	
主催 (Co)	1995/4/26～5/3	作：斎藤麟、演出：加藤直	沢田研二、剣幸、マリ、余貴美子、熊谷真美、伊吹あい ほか	

貸館	劇団四季公演 ミュージカル 「赤毛のアン」	1995/6/8～29	演出：浅利慶太	野村玲子、日下武史 ほか	
主催 (Co)	ブロードウェイ・ミュージカル 「リトル・ミー」	1995/7/4～10	演出・振付：謝殊栄	大浦みずき、今井清隆、園岡新太郎、佐戸井けん太、陰山泰、本間仁 ほか	
貸館	ハウス食品スベシヤル 「楽園伝説」	1995/8/11～18	演出・振付：中村龍史	西田ひかる、松岡英昭、日向薫、紙状恒彦、福井貴一、岡幸二郎 ほか	主催：関西テレビ、後援：FM802、特別協賛：ハウス食品
主催 (買)	二十一世紀歌舞伎組 「雪之丞変化 2001年」	1995/8/25～31	原案・演出：市川猿之助	中村信二郎、市川右近、市川猿弥、市川笑三郎、市川段治郎、市川春猿、市川笑也、坂東弥十郎 ほか	
主催	宝塚歌劇雪組公演 「バウ・ミュージカル・ファンタジー 「グッバイ・マリナーズ」	1995/9/17～19	潤色・演出：岡田敬二	宝塚歌劇団雪組	
主催	オフ・ブロードウェイ・ミュージカル 「乾杯！モンテカルロ」	1995/10/11～17	演出・歌詞：勝田安彦	島田歌穂、曾我泰久、中丸忠雄、今村ねずみ、旺なつき ほか	協賛：(株)きんでん
主催	宝塚歌劇団星組公演 田崎真珠スベシヤル スペース・パフォーマンス 「Action!」	1995/12/16～30	作・演出：三木章雄	宝塚歌劇団星組	協賛：田崎真珠(株)・阪急電鉄(株)

※主催(買)は買公演、主催(Co)はCo-production

資料7:チケット収入とロイヤリティ試算

<大阪・東京2ヶ所公演>公演数:50回(大阪20、東京30回)

大阪(900)	席種	単価	席数	販売率100%	販売率90%	販売率85%	販売率80%	販売率70%
売上げ				18,000	16,200	15,300	14,400	12,600
	S(80%)	¥10,000	14,400	144,000,000	129,600,000	122,400,000	115,200,000	100,800,000
	A(5%)	¥8,500	900	7,650,000	6,885,000	6,502,500	6,120,000	5,355,000
	団体(15%)	¥8,000	2,700	21,600,000	19,440,000	18,360,000	17,280,000	15,120,000
	計		18,000	173,250,000	155,925,000	147,277,800	138,600,000	121,275,000
ROYALTY (12%)				20,790,000	18,711,000	18,700,000	18,700,000	18,700,000
ROYALTY (8%)				13,860,000	12,474,000	11,782,224	11,088,000	11,000,000
Co-Ordinate Fee(0.5%)				866,250	779,625	736,389	693,000	606,375
交渉経費(弁護士、通信費ほか)				1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
Net 収入(royalty12%)				150,593,750	135,434,375	126,841,411	118,207,000	100,968,625
Net 収入(royalty8%)				157,523,750	141,671,375	133,759,187	125,819,000	108,668,625

東京(1200)	席種	単価	席数	販売率100%	販売率90%	販売率85%	販売率80%	販売率70%
売上げ				36,000	32,400	30,600	28,800	25,200
	S(70%)	¥10,000	25,200	252,000,000	226,800,000	214,200,000	201,600,000	176,400,000
	A(15%)	¥8,500	5,400	45,900,000	41,310,000	39,015,000	36,720,000	32,130,000
	団体(15%)	¥8,000	5,400	43,200,000	38,880,000	36,720,000	34,560,000	30,240,000
	計		36,000	341,100,000	306,990,000	289,965,600	272,880,000	238,770,000
ROYALTY (12%)				40,932,000	36,838,800	36,300,000	36,300,000	36,300,000
ROYALTY (8%)				27,288,000	24,559,200	23,197,248	22,000,000	22,000,000
Co-Ordinate Fee(0.5%)				1,705,500	1,534,950	1,449,828	1,364,400	1,193,850
交渉経費(弁護士、通信費ほか)				1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
Net 収入(royalty12%)				297,462,500	267,616,250	251,215,772	234,215,600	200,276,150
Net 収入(royalty8%)				311,106,500	279,895,850	264,318,524	248,515,600	214,576,150

東京・大阪Net 収入(royalty12%)	448,056,250	403,050,625	378,057,183	352,422,600	301,244,775
東京・大阪Net 収入(royalty8%)	468,630,250	421,567,225	398,077,711	374,334,600	323,244,775

※ロイヤリティは、前払い分は12%のケースが50万ドル、8%が30万ドル。これを大阪・東京ののべ席数で按分(1:2)

※ロイヤリティは、前払い分が最低保証額。即ち12%のケースで50万ドル、8%で30万ドル。1ドル=110円で換算。

<大阪単独公演>(公演数:50回)

大阪(900)	席種	単価	席数	販売率100%	販売率90%	販売率85%	販売率80%	販売率70%
売上げ				45,000	40,500	38,250	36,000	31,500
	S(80%)	¥10,000	36,000	360,000,000	324,000,000	306,000,000	288,000,000	252,000,000
	A(5%)	¥8,500	2,250	19,125,000	17,212,500	16,256,250	15,300,000	13,387,500
	団体(15%)	¥8,000	6,750	54,000,000	48,600,000	45,900,000	43,200,000	37,800,000
	計		45,000	433,125,000	389,812,500	368,194,500	346,500,000	303,187,500
ROYALTY (12%)				55,000,000	55,000,000	55,000,000	55,000,000	55,000,000
ROYALTY (8%)				34,650,000	33,000,000	33,000,000	33,000,000	33,000,000
Co-Ordinate Fee(0.5%)				2,165,625	1,949,063	1,840,973	1,732,500	1,515,938
交渉経費(弁護士、通信費ほか)				2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000
Net 収入(royalty12%)				373,959,375	330,863,438	309,353,528	287,767,500	244,671,563
Net 収入(royalty8%)				394,309,375	352,863,438	331,353,528	309,767,500	266,671,563

資料8:経費試算

<大阪・東京2ヶ所公演>

	共 通	大阪公演(20回)	東京公演(30回)	計
文芸費	17,600,000	3,300,000	4,800,000	25,700,000
舞台費	29,200,000	15,600,000	20,200,000	65,000,000
音楽費	9,500,000	9,100,000	14,000,000	32,600,000
出演料	0	40,600,000	60,800,000	101,400,000
制作費	15,900,000	1,500,000	2,700,000	20,100,000
交通費	500,000	2,500,000	0	3,000,000
宿泊&日当	0	16,800,000	0	16,800,000
宣伝費	5,000,000	11,300,000	22,100,000	38,400,000
会場費	0	16,300,000	36,000,000	52,300,000
その他	800,000	1,800,000	23,700,000	26,300,000
小計	78,500,000	118,800,000	184,300,000	381,600,000
制作管理費	2,000,000	0	0	2,000,000
合計	80,500,000	118,800,000	184,300,000	383,600,000
消費税(3%)	2,415,000	3,564,000	5,529,000	11,508,000
総計	82,915,000	122,364,000	189,829,000	395,108,000
構成比	21%	31%	48%	100%

※共通:単独公演であっても発生する経費

<大阪単独公演>

	大阪公演(50回)
文芸費	25,700,000
舞台費	67,900,000
音楽費	32,600,000
出演料	101,400,000
制作費	16,400,000
交通費	3,000,000
宿泊&日当	42,100,000
宣伝費	22,000,000
会場費	40,600,000
その他	5,200,000
小計	356,900,000
制作管理費	2,000,000
合計	358,900,000
消費税(3%)	10,767,000
総計	369,667,000

文芸費:企画、翻訳、演出、振付、音楽監督、美術プラン、衣裳プラン、照明プラン、音響プラン、ヘアメイク、振付助手、演出助手、音楽指導、舞台監督(本番・リハーサル)、舞台監督助手(本番・リハーサル)

音楽費:訳詞、編曲、写譜、稽古ピアノ、指揮、演奏、スタジオ使用料、楽器使用料、ローディ人件費、調律

出演費:5ランク(主役級4人+アンサンブル)

制作費:打合せ、NY出張、通信、弁当、搬出入人件費、リハーサル会場費、ケータリング費、制作人件費(アルバイト含む)、制作雑費、台本印刷費、パーティ

交通費:キャスト、スタッフ、メインスタッフ、マネージャー、ミュージシャン、制作スタッフ、付き人

宿泊&日当:キャスト(2ランク)、スタッフ、メインスタッフ、制作スタッフ、ミュージシャン、食費、マネージャー、付き人、

宣伝費:デザイン、ポスター印刷、ちらし印刷、チケット印刷、招待状印刷、広告

会場費:劇場費、付帯経費

その他:イベント保険、券売手数料、チケットセンター

付属資料9 イベントに関する基礎調査

文化イベント	参加度 (一人あたり年間観劇回数)	増えて欲しいイベント (複数回答)
演劇	0.21回	23.0%
ミュージカル	0.25回	47.3%
子供劇場	0.16回	14.1%
大衆演劇歌謡ショー	0.08回	10.0%
能・狂言	0.07回	12.0%
日舞	0.07回	3.1%
歌舞伎	0.04回	23.6%
寄席漫才	0.04回	25.9%
舞踊	0.02回	2.5%
バレエ	0.06回	11.4%
文楽	0.00回	6.2%
その他	0.02回	0.0%

* 世帯当たり年間教養娯楽サービス支出額は、

1) 他の教養娯楽サービス支出(ゲーム、スポーツ、遊園地等、映画演劇)は、
全国で年間¥79,085

2) うち映画演劇入場料は、全国で、¥5,795

付属資料10 都道府県の人口分布

(単位:千人)

	東京	大阪	京都	兵庫
合計	11,084	8,618	2,585	5,464
男	5,895	4,213	1,248	2,632
女	5,909	4,405	1,337	2,832
15～19合計	631	490	160	323
男	324	250	82	162
女	307	240	78	161
20～24合計	971	625	209	352
男	513	316	108	170
女	458	309	101	182
25～29合計	1,087	750	206	424
男	566	374	102	209
女	521	376	104	215
30～34合計	986	660	174	379
男	516	330	87	186
女	470	330	87	193
35～39合計	848	559	155	348
男	446	280	76	171
女	402	279	79	177
40～44合計	711	476	142	328
男	368	238	70	161
女	343	238	72	167
45～49合計	760	558	165	373
男	390	276	80	184
女	370	282	85	189
50～54合計	946	737	221	458
男	479	362	107	226
女	467	375	114	232
55～59合計	833	668	185	392
男	411	328	90	191
女	422	340	95	201
60～64合計	732	566	157	334
男	353	280	76	162
女	379	286	81	172
65～69合計	651	469	144	308
男	309	226	68	144
女	342	243	76	162
70～74合計	501	343	119	251
男	227	156	54	114
女	274	187	65	137
75～79合計	347	226	84	172
男	140	88	31	67
女	207	138	53	105
80才以上	340	259	108	201
男	137	80	33	63
女	203	179	75	138

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

不許複製

慶應義塾大学ビジネス・スクール

Contents Works Inc.